

町内各地で無病息災願う

正月の伝統つなぎ各地で鬼火焚き



火入れをする子どもたち（内之浦）

正月の伝統行事である鬼火焚きが1月3日から14日にかけて、町内4カ所で行われました。

○岩崎のオネッコ（3日）
岩崎のオネッコには、地域住民や帰省中の人々などおよそ50名が集まりました。強風によつて倒れ、一度組み直したというやぐらの中には子どもたちが集まり、餅を焼いたり、鹿児島弁クイズなどをしたりして楽しめました。毎年、参加している高山小学校5年生の濱田知希さんは「クイズが面白かったです」と話していました。



勢い良く燃えるやぐら（国見）

○論地のオネッコ（7日）
論地のオネッコは振興会や子ども会が中心となつて境川堤防で行われ、やぐらの中には、地域の子どもたちが集まり、ぜんざいや焼き餅を頬張りました。あいにく、途中で雨が降り出しましたが、やぐらに火を放つと煌々と燃え上がり、集まった人たちは傘を差しながら今年の無病息災を願いました。

○ドヤドヤサー（9日）
今年のドヤドヤサーは天候不順により、7日から9日に延期して行われ

ました。会場の内之浦漁協そばの広場には、強風の中、18人の七草祝いの子どもたちをはじめ大勢の見物客が集まり、親竹が倒れると飾られていた縁起物の笹や飾りを持ち帰りました。子どもたちの保護者は「成長をしみじみと実感します。素直に育ってもらいたいですね」と話していました。

○国見のジャンボ鬼火焚き（14日）
高さ約30メートルの大きな親竹が特徴の鬼火焚きが国見小中学校そばの畑地で行われました。強風のなか、消防団や実行委員会が安全を確認してから無事に点火、火の勢いがおさまると子どもたちを中心に竹の先端にさした餅を焼いて無病息災を願いました。子どもたちは「普段見られない大きな炎を体験できるのが楽しいです」と話していました。



やぐらのなかに集まった子どもら（論地）



火入れの前にやぐらの前で記念撮影（岩崎）